

開催日時：平成23年2月27日（日）
13時00分から15時30分

会 場：中電ホール



県民公開シンポジウム

**がん治療、
口から食べて人間らしく乗り切りたい！**

後援：愛知県医師会 愛知県歯科医師会 名古屋市歯科医師会 愛知県薬剤師会
愛知県看護協会 愛知県理学療法士会 愛知県栄養士会 愛知県言語聴覚士会 名古屋市

協賛：大鵬薬品工業株式会社 株式会社ヤクルト本社 サンスター株式会社 株式会社オーラルケア
ウエルテック株式会社 和光堂株式会社 ティアンドケー株式会社
株式会社大塚製薬工場・イーエヌ大塚製薬株式会社 株式会社医療給食

ご挨拶

愛知県がんセンター中央病院
病院長 篠田 雅幸

県民公開シンポジウム開催にあたり、主催を代表してご挨拶申し上げます。

「がん対策基本法」の実現を目指す「がん対策推進基本計画」は、2つの大きな目標として、がん死亡率の2割減と医療のがん患者・家族の生活の質の向上をにかけています。医療者として、高度ながん治療を提供することはもちろん、患者さんの希望や社会的背景に沿った支援も常に心懸けていかねばならない、と痛感しております。

近年、医学の進歩は目覚ましいものがあります。しかし、それをもってしても、手術・放射線治療・薬物治療などのがん治療に伴う合併症や副作用の発生を克服するまでには至っておりません。がん治療において、患者さんの負担を軽減することは極めて重要な医学的課題です。そして、治療中の患者さんにとって口から食事が摂れるかどうかは切実な問題です。美味しく口から食事を摂ることは、体力だけでなく気力も高め、さまざまな治療を乗り越える大きな力になるからです。そのために、がん治療中の栄養をどのように考え、がん治療によって起こる口腔内の諸問題を口腔管理としていかにマネジメントしていくか、などが重要な鍵を握ります。

患者さんが抱える多くの医学的問題を解決するためには、専門性を持った多職種の連携と支援が不可欠です。当院でも多職種によるチーム医療活動が活発に行われています。

このような流れの中、“がん患者とともに考えるセミナー”—がん治療、口から食べて人間らしく乗り切りたい！—というテーマでシンポジウムを社団法人愛知県歯科衛生士会と共催させていただき運びとなりました。まさに時を得ており、患者さんやそのご家族にとっても大変興味深い内容ではないかと考えております。今回のシンポジウムが参加した皆様に、いろいろな形で役に立てば、望外の喜びであります。

最後になりますが、このたび開催にあたりご協力・ご支援をいただきました関係各位に、心よりお礼申し上げます。

県民公開シンポジウム

～がん患者とともに考えるセミナー～の開催にあたって

社団法人 愛知県歯科衛生士会
会長 池山 豊子

愛知県歯科衛生士会と愛知県がんセンター中央病院との共同企画による公開シンポジウムを開催するにあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

私も歯科衛生士ががんの患者さんとお会いする機会が多くなりました。それは病院病棟の一室であったり、町の歯科医院の診療室であったり、時には在宅にて療養していらっしゃる患者さんのご自宅であったり、など場面は様々です。

そこで求められるものは「口から食べる」ことへの支援です。

病気と闘う気力と体力を維持するためには「口から食べる」ことはとても大切です。しかしがんという病気によってあるいは治療の副作用から「口から食べる」ことに支障が出てくる場合があります。口腔粘膜の異常、唾液分泌の減少、味覚障害など口腔の異変に悩まされている患者さんの数は少なくありません。

がん治療を受ける患者さんにむし歯や歯周病のような口腔疾患があったり、口腔内が不衛生な状況であると口腔粘膜炎の発症にも関係すると言われています。がん治療開始前から正しい口腔清掃を行って口腔内細菌叢を整え、口腔内を清潔にしておくことは必要な処置といえます。がん治療と歯科医療との連携は治療の有効性に必須でしょう。

私も歯科衛生士は患者さんに“口腔機能の維持管理（口腔ケアマネジメント）”を継続的に行っていくことで口腔の不快感を少しでも緩和させ、食べることを「苦痛」から本来の「楽しみ」に向けていきたいと考えています。

いま“口腔機能の維持管理（口腔ケアマネジメント）”は医療や介護の現場では“口腔ケア”という言葉で普及してきました。“口腔ケア”は多職種で関わってこそ、より効果を発揮します。このシンポジウムを通して患者さん自身と患者様さんを取り巻くすべての職種の方々に“口腔機能の維持管理（口腔ケアマネジメント）”をご理解いただければ幸いです。

このシンポジウムの開催にあたりご協力ご支援をいただきました皆様に深く感謝申し上げます。

プログラム

13:00～

ご挨拶

愛知県がんセンター中央病院 病院長 篠田雅幸

社団法人 愛知県歯科衛生士会 会長 池山豊子

13:10～14:30

第1部 特別講演

特別講演1 「いつまでもおいしく食べるために」

藤田保健衛生大学医学部外科・緩和医療学講座 助教 村井美代

特別講演2 「口のケアでがん治療を乗り越えよう！」

～がん治療と口に関する大事な情報提供～

静岡県立静岡がんセンター 歯科口腔外科 部長 大田洋二郎

14:30～14:40

休憩

14:40～15:30

第2部 シンポジウム 「それぞれの職種の役割を考える」

コーディネーター：愛知県がんセンター中央病院 薬物療法部 部長 室 圭

シンポジスト：中日新聞 編集局長 志村清一

愛知県がんセンター愛知病院 がん看護専門看護師 菅原聡子

愛知県がんセンター中央病院 歯科衛生士 長縄弥生

社団法人愛知県歯科医師会 会長 宮村一弘

12:00～16:00

企業展示：2階ロビー

サンスター株式会社 株式会社オーラルケア ウエルテック株式会社 和光堂株式会社
社 ティアンドケー株式会社 株式会社大塚製薬工場・イーエヌ大塚製薬株式会社
株式会社医療給食

いつまでもおいしく食べるために



藤田保健衛生大学医学部外科・緩和医療学講座
助教 村井 美代

本学第一教育病院(本院)が、がん診療連携拠点病院として承認されるにあたり、2010年3月緩和ケア病棟(19床)が開設されました。多くのがん患者さんが入院時、栄養障害に陥っていることがわかっていますが、本講演では『いつまでもおいしく食べるために』緩和ケアNST(栄養サポートチーム)が実践している内容についてご紹介したいと思います。

○ご略歴

村井 美代(むらい みよ) 先生

1988年和歌山県立医科大学卒、同泌尿器科学教室入局後、92～95年社会保険紀南総合病院、95年国立大阪南病院を経て2000年藤田保健衛生大学医学部助手、02年同外科学・緩和ケア講座(現：外科・緩和医療学講座)助手(藤田保健衛生大学七栗サナトリウム勤務)となり、10年より同助教。93年泌尿器科専門医、09年日本緩和医療学会暫定指導医、日本静脈経腸栄養学会評議員。

がん領域における主な活動として、愛知緩和医療研究会事務局、三重緩和医療研究会世話人、「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」の学会推薦指導者ほか。



口のケアでがん治療を乗り越えよう！
- がん治療と口に関する大事な情報提供 -

静岡県立静岡がんセンター 歯科口腔外科
部長 大田 洋二郎

がん治療は、薬や放射線でがん細胞を殺したり、手術で取り除いたりして治す治療ですが、もともと元気な体に相当なダメージを与えます。その結果、食事がすすまなくなり、一時的に体力も落ちてしまいます。その一方で、治療の影響で口の粘膜がただれる口内炎や口から感染がおこり、がん治療を中断したり、治療内容の変更をしたりすることがあります。こんな口のトラブルをなるべく少なくして、治療中もなるべく楽に乗り越えたいと誰もが考えるはずです。そんなとき知っておくと役に立つ情報をすべてお話します。

○ご略歴

大田 洋二郎(おおた ようじろう) 先生

1986年北海道大学歯学部卒、第一口腔外科講座入局後、88年国立がんセンター歯科医員、01年に同病院歯科口腔科医長。02年より静岡県立静岡がんセンター歯科・口腔外科部長。03～06年厚生労働省がん研究助成金による班研究「がん治療に伴う口腔合併症の実態調査とその予防方法の確立」主任研究者。日本緩和医療学会代議員、北海道大学歯学部・東京医科歯科大学非常勤講師。

主な著書として、頭頸部がん化学放射線療法をサポートする口腔ケアと嚥下リハビリテーション(共著)オーラルケア社、2010年7月がん看護特集「根拠がわかる口腔ケア」(監修・共著)南江堂ほか。

●シンポジスト紹介●

コーディネーター：室 圭

愛知県がんセンター中央病院 薬物療法部 部長

すべては口から

中日新聞 編集局長 志村 清一

地球上のいきものは35億年前に誕生して以来、外部からエネルギーを取り込むことで命をつないできた。人間も例外ではない。中意味の国の古典「論語」に没齒という、寿命がつきるという意味の言葉がある。つまり、歯がなくなるとは、食べられない、つまり生きていられなくなることの意味している。人類は、言葉を発明し、火を使うことで脳を大きくしてきた。

しかし、これが元で歯は退化し、二大疾患（虫歯、歯周病）に悩まされることになった。これを機に医科歯科の統合への道を探ってはどうか。このところ歯科大学への志願者と入学者が急減しているとも聞く。統合して「口内医学」とでもしたらどうだろう。

看護師のおこなう食べることへの支援

愛知県がんセンター愛知病院 がん看護専門看護師 菅原聡子

がん患者は治療や病状の進行に伴い、口内炎や味覚障害、食欲不振などの苦痛症状を経験する。私たち看護師は患者の今までの生活習慣や食生活を丁寧に聞き、知ることによってその人にあった食事の方法や食物の選択、口腔ケアの方法を患者と一緒に考え、ケアを提供している。口から食べるということは生きることへの希望にもつながっており、その人らしい生活の視点で食事に関わることが看護師のおこなえる患者支援ではないかと考える。

歯科衛生士としてできること

愛知県がんセンター中央病院 歯科衛生士 長縄弥生

口から食事がとれなくなった患者さんが、表情の力強さや意欲がなくなっていくことを経験する。歯科衛生士は「おいしく喰う」ことに働きかけることができる職種である。口の中が汚れていることによる不快感および味覚の低下改善、味を感じるために必要な唾液分泌への働きかけ、食べ物や飲み物を正しく飲込むための機能維持・回復などの役割ができる。「お口の環境」から早期に社会復帰するために支援することが役割ではないかと考える。

チーム医療をすすめるために

社団法人愛知県歯科医師会 会長 宮村一弘

がんにとらわれず、患者さんを中心にしたチーム医療に歯科的管理が評価されることは、歯科界にとって望むところである。しかし、実際に歯科医、歯科衛生士が有機的な受け皿を作り、チームの一員になり得ているのかが問題と思う。その辺りのことを現状と主観を交えてプレゼンしたい。



ADHA

愛知県歯科衛生士会 公式マスコット”ピカリン”